



シロモチくんとゴーちゃんが語る津市政 vol.39

土地利用最適化と耕作継続に向けて 取り組んでいます ～農業の課題解決のため、みんなで考える～

平成から令和に時代が流れ、地域農業の課題も変わりつつあります。この課題の解決を目的に、農業関係機関の5者が徹底的に話し合う場「令和版営農会議」がスタートして3年が経過しようとしています。この会議の取り組み状況についてゴーちゃんがシロモチくんに尋ねました。

🐞 令和版営農会議ってどんな会議なの？

🐞 令和版営農会議は、令和元年10月に、農業関係者が集まって地域の農業課題について話し合う場としてスタートした会議だよ。津地域の北部と中央、南部、各総合支所の地域ごとに全部で12の会議を設置して定期的に話し合っているよ。

🐞 地域ごとに設置しているんだね。でも、なぜ設置することになったの？

🐞 元々、各農業関係機関は農家や地域の声を聞いてそれぞれができることをしっかりとやってきたんだ。だけど、あくまでそれぞれが独立した機関として動いていて、農家や地域にしてみると相談した先ができる仕事の範囲でしか話ができずに、それぞれの関係機関だけの取り組みで終わっていたんだ。これでは地域の農業が抱える課題の本質的な解決にはつながりにくいし、とても時間がかかってしまうんだよ。でも、令和版営農会議では関係者が同じ場所に集まり、互いに顔の見えるところで農家や地域の声を聞くことで、それぞれが

できることを組み合わせて、地域農業の課題解決を早めることができるんだ。

🐞 参加者同士の距離が縮まることも大事だね。どのくらいの頻度で開催しているの？

🐞 農業が忙しい時期を避けて、7月頃、10月頃、2月頃の年3回程度開催しているよ。

🐞 どんな人が参加しているの？

🐞 地域の農業について話し合うことが目的だから、関係機関として農業委員、農地利用最適化推進委員、農協、三重県(津地域農業改良普及センター)、津市の5者が集まっているんだ。



令和版営農会議の様子